

あれから十五年が経ちました。

記念の一枚です。

藤崎 宏忠（2組）



僕は高校卒業後、法政大学工学部に進学、建築科を専攻。卒業後は東急グループの東急建設に就職。関東・関西・東北・九州・沖縄と転勤族のサラリーマン（主に建築現場の監理技術者）として三十七年間勤務した。

この一枚の写真は私の定年の年でした。一九九九年（平成十一年）八月二十六日、フランス共和国アトランティック県シャトープリアンの教会前での写真です。

あれから十五年経ちました。娘を嫁がせる決心を、披露宴の席上「お礼のじよば」
として述べました。仏語と英語に訳したものは事前卓上に配布されており、多くの皆さんに祝福されました。

— お礼のじよば —

昨年の二月、我が家に運命がやって来ました。娘が「フランソア」を連れてきたのです。しかも、結婚相手として紹介されました。いつかはこの様な日が来ると父親として覚悟はしていたつもりでしたが、内心、動揺は隠せませんでした。

最初は、娘が選んだ男性を少し厳しい目で眺めていましたが、それもほんのわずか、たちまち「フランソア」の人柄にふれ、私の気持ちは和やかになってきました。「娘が選んだ男性だ！信じて見守ってやろう！」私は胸の奥で、堅い決意をしました。遠く離れた星のもとで生まれ育った二人が、こうして出会いの愛を深めていることは、きっと何か意味があるのだと「運命」を感じています。

日本で結婚披露をし、イギリスでも楽しいウェディングをし、そして本日は「フランソア」の生まれた故郷でのウェディングパーティー。遠い所からお祝いに来て下さった多くの方々に祝福されている二人を見ておきますと、親としてこんなに嬉しいことはありません。

ご出席下さいました皆様とミセス・ジョゼットに感謝の気持ちでいっぱいです。二人の幸せを祈りますと共に、幸せの輪が国を越えて広がることを心から願って、お礼の言葉と致します。

一九九九年八月二十六日

藤崎 宏忠



写真のデータ（上）

日時：1999年（平成11年）8月26日（木）
場所：フランス共和国アトランティック県シャトープリアン（パリからレンヌまで列車で2時間、レンヌから乗用車で約1時間）

教会前：

参加者は約100名。日本から柴田君を始めとして21名、イギリスから留学していた時代の友人たち20名、フランスは地元の市長始め親兄弟と親戚で約50名。

写真のデータ（下）

日時：2014年7月（平成26年）
場所：メキシコのロスカボス海岸へ家族でバカンス旅行。左上と右端はパパとママです。すっかりすっかりお姉ちゃんになった長女、ふたりのわんぱく坊主。

